

糖尿病医療と

患者会



今回は、糖尿病患者会設立総会での患者様との談話の様子を、3階西病棟の榎村看護師長に伺いました。

【糖尿病患者会設立】

日本糖尿病協会は、糖尿病患者と医療スタッフにより糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、患者及びその家族への療育指導等を目的に昭和38年に結成されました。糖尿病治療はその多くが患者様の自己管理によるものです。しかし、飽食と車社会の現代において患者様がより良い自己管理を継続していくには、大変困難な時代です。

そこで日本糖尿病協会は『糖尿病は医者にかかるだけでは治せない。今、あなたに必要なのは先輩患者さんのアドバイスです。』と、提唱し患者会を育成しています。日本糖尿病協会は各県支部から地方へと分散され、全国で1400を越える分会が糖尿病医療のために活動しています。当院でも長年の夢が叶い、掛川市立総合病院糖尿病患者会「オリーブ会」を設立し9月には設立総会を開催する事ができました。

【患者様の経験談】

い、記念すべき総会で、型糖尿病歴50年に渡り、自己管理を実践されている男性患者

様Aさんに、これ迄の体験を語って頂きましたのでご紹介します。

榎村看護師長S「発病当時はどのような気持ちでしたか？」

S「最近のインスリンの進歩をどのようにお考えですか？」

患者様A「糖尿病と診断されたのは20歳代、結婚できないかと悲壮な時もありました。病気発見は診療所の先生でした。当時は試薬を自分で作り尿糖検査をしていました。インスリン注射を怖がる人がいますが、インスリン注射は私を喜ばせました。インスリンを使った後は足が軽くなり、ぴよんぴよん走れるようになり、これで生きていけると実感しましたよ。」

A「ノボラピットは超速効型インスリンはすばらしいですね。これまで何回も、何回も低血糖をおこし救急車のお世話になりましたが、ノボラピットになってからは低血糖をおこすことが本当に少なくなりましたよ。」

ば目覚めませんでした。患者はストレスを貯めることはとても良くありません。すぐに血糖があがってしまいます。嫌なことは看護師長の所にもっていきましました。私のストレス解消の方法です。自己管理ノートは、1冊で3年間の記録ができます。恐れたこと、嫌な事、先生が回診で言われた事、総て書いてあります。表紙は美味しい食べ物の写真が貼ってありますが、これもストレス解消の方法ですね。美味しい物を食べたいこともありますが、美味しい物を見ても平気、平気と空威張りしている内に、周りの人が食べていても平気になりましたね。食事管理では毎日の献立表がとても役に立ちました。が、今は無くなってしまうと聞き残念に思います。病気になるたら仕方ない、先生や